

# 紙芝居「MM ってなあに？」

①



ここは動物町。動物と人が仲良く暮らす町がありました。そこに車が大好きな男の子がいました。

②



「ぼく、車って楽しし早いし使いやすくて大好き！  
今日もどこへ行こうかな～」

そんなぼく君はどこへ行くにもいつもお母さんの車  
に頼ってばかり…

「ちょっと待って！車以外にももっと乗り物があ  
るってしってるかい？」

「君は、誰…?!」（驚くぼく君）

③



「ぼくは MM の妖精、モビマネくんさ！ぼくは君や  
皆が楽しく暮らしやすい町にするために君に会いに  
きたんだ。」

「どうして??」

「まずは、バス・電車に乗ってみよう！」

モビモビモビモビ

モビリティマネジメント！（魔法の呪文）

# 紙芝居 「MM ってなあに？」

④



「うわあ、ここは…」  
「バス停さ！」  
「本当だ…ぼくあんまりバスに乗った事ないや」  
「じゃあ早速バスに乗ってみよう！」

⑤



「バスって大きいから景色がよく見えるね…！」  
「そうなんだ！いいでしょ？それに近くにバス停があつて止まってくれるから近所の移動とかにもとっても便利なんだ！」  
「へえ～！バスってあんまり乗らないけどこんなに良いところがあるんだね！」  
「じゃあバスの良さも分かったところで次は電車に乗ってみよう！」

モビモビモビモビ  
モビリティマネジメント！（魔法の呪文）

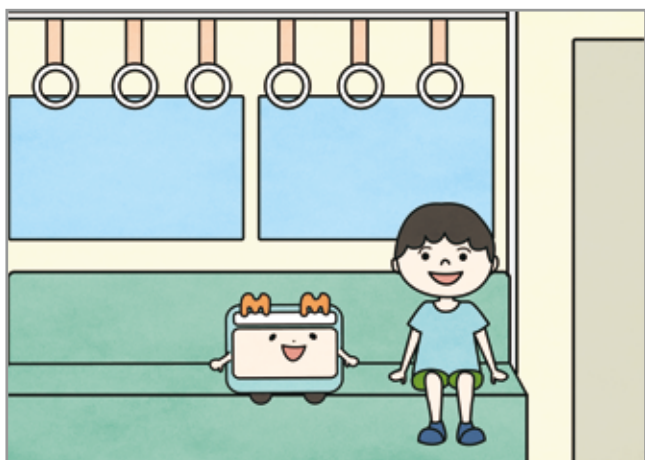
⑥



「ここは駅だね！」  
「うん！こんどは電車さ！まずは切符を買わなきゃね。君ももうすぐ小学生になるし練習してみよう」  
「うん…。ここをこうして…これでいいのかなモビマネ君？」  
「すごいね！ばっちりさ！」  
「えへへ…切符を買うのって意外と簡単だね！ぼく、ほっとしたよ！」  
「じゃあさっそく電車に乗ってみよう！」

# 紙芝居 「MM ってなあに？」

⑦



「電車って速くて移動にとっても便利なんだ。急い  
るときとかにとっても助かるよ！」

「そうなんだ！電車って見た目もかっこよくてぼく  
好きかも！」

「ふふ！電車の良さも分かったかな？」

「うん！ぼくバスも電車ももっと乗ってみたいくなっ  
たよ！」

「よかった！じゃあ本当に最後に君に見てほしいも  
のがあるんだ…それ！」

モビモビモビモビ

モビリティマネジメント！（魔法の呪文）

⑧



「あれ…？ここは…」

「近所のクマおじいさんのお家だよ。」

「(…？なんだか困ってるのかな？)」

クマおじいさんこんにちは！どうしたの？」

「ぼく君こんにちは。お出かけしようと思ったけど、  
使う人が減ってしまって近所のバスがなくなってしま  
ったんだ。車も増えて空気も汚いし…ごほごほ」

「モビマネ君…どうしてバスがなくなっちゃったの  
…？」

⑨



「それはね、自分の車を使う人が増えてしまったか  
らバスに乗る人が少なくなっちゃったからなんだ。  
だから車に乗る事ができないおじいちゃんやおばあ  
ちゃんや体の不自由な人が困ったり、空気が汚く  
なっちゃったことで皆も困ってしまってるんだ…。」

「どうしたらいいかな…ぼく、クマおじいさんや困っ  
てる人を助けてあげたい…！」

「簡単だよ！でもぼくだけじゃなくて君の力も必要  
なんだ！」

モビモビモビモビ

モビリティマネジメント！（魔法の呪文）

# 紙芝居「MM ってなあに？」

⑩



「お父さんやお母さんやお友達、みんなで上手に使い分ければいいんだ！

近くの公園やお店に行くには自転車やバスに乗る・歩くだけでも全然違うんだよ！」

「そうなんだ！モビマネ君ありがとう！それならぼくでもできそう！皆で仲良く楽しく、困ってる人を助けてあげられるモビマネ君みたいになれるよう頑張るね！」

「うん！一緒に頑張ろう！」

モビモビモビモビ

モビリティマネジメント！（魔法の呪文）

## おしまい